

様式第2号（第6条関係）

意見交換会実施報告書

実施日時	令和6年7月31日（水）13:24～ 15:05		
実施場所	砺波市役所 特別会議室		
出席議員	有若 隆委員長	林 教子副委員長	山森文夫委員
	山本善郎委員	山田順子委員	向井幹雄委員
参加者数	男性 5 人 女性 0 人 計 5 人 （団体等の名称 となみ野農業協同組合）		
実施概要	テーマ：JAの現状と今後の課題・展望について		
	<p>【内容】</p> <p>I. 【健全な土づくりの推奨】 JAとなみ野では、近年の高温や異常気象に対応すべく「となみ野米」「優良種子」「特産野菜」の安定生産を図るために、生産の基盤である農地の「土づくり」に積極的・継続的に推進し地力増進に努めている。</p> <p>II. 【労力の軽減】 近年の高温（猛暑）により高齢化する中での農作業は大変であり、体力的にもきつく、また熱中症等のリスクが高くなる。労働力の軽減と農業生産の維持に向け、スマート農機の導入やICT・IoTの活用が必要である。 これまでもJAではスマート農機や小規模農機などの導入支援を行ってきたが、特に小規模農機に対する更なる支援が必要である。</p> <p>III. 【環境に配慮した農業】 環境に配慮した農業の推進として、肥料や農薬の剪定について県・全農も交えて決定している。肥料価格や資材の高騰に伴い、堆肥や地力増進作物の施用による化成肥料の低減、富富富や特別栽培米の推進により、農薬や化成肥料の低減を進める。</p> <p>IV. 【大門素麺の存続、生産拡大に向けての改善】 JAとなみ野、砺波市の特産品である『大門素麺』は昭和60年には</p>		

生産量22, 318c/sで生産者戸数は22戸だったが、生産者の高齢化、担い手不足により令和5年度には生産量6, 236c/s、生産者は10戸と大幅に減少している。

そのため、空調設備の整備により、極寒期以外への生産期間の延長を検討している。

・令和6年産たまねぎの概況について（収穫量・品質・単価・選別状況）

収穫時期に天候に恵まれ、計画的に作業を行うことができた。Lサイズのたまねぎが多く、秀品が多かった。単価も昨年に比べ高価となる。また、令和7年産は生産面積を拡大し、目標は170ha（現在148ha）としている。

【課題と対策】

いずれの項目においても、農業材料費の高騰、設備の老朽化や効率の良い機械への更新、手作業から機械化へ、新規農業従事者や生産者の育成が重要課題である。

「米不足は本当か」

昨年の高温の影響で等級の高い商品が品薄であること、またインバウンドによる300万人の訪日が一因であり、米価格の高騰は、生産者が資材の高騰による負担増や人件費を考えると、米の価格が上がっても不思議はない。

また、価格の高騰により消費が減るとは考えていない。加工（おにぎり、パック米）することで、むしろ若い世代にも販売は伸びている。小売りに参加していかなければならず、小分け、グラム売りと消費は多種多様であり調査研究していく。

「希望する支援」

作業員の確保、機械の購入補助などがあると、ありがたい。市からも県、国に対して要望し、連携をとって農業従事者の持続支援につなげたい。

「就農者を育てる」「ショートワーク農業」

新規就農者の募集をかけてもなかなか集まらないが、8/1より研修に入る20歳の女性があらわれた。広報誌の表紙はなるべく若い就農者

を採用している。

「ショートワーク、1時間から可能」という募集に対し200人の問い合わせがあり、20～80代の39人が応募した。日平均3～6時間の作業時間で無理のない労働時間が潜在的な労働力の発掘につながった。

【考察】

つくる、から開発、販売、販路や生産の拡大、事業継承までを請け負うJA組織は、たゆまぬ努力で農業者を支えていることがわかった。

人員不足、担い手不足はどの分野にもおこっているが、食の肝である米、野菜を絶やすわけにはいかない。

JA、自治体、農業者それぞれの立場で農業の持続と発展に向けての取組みをしていかなければならない。